

保育界

2014

6



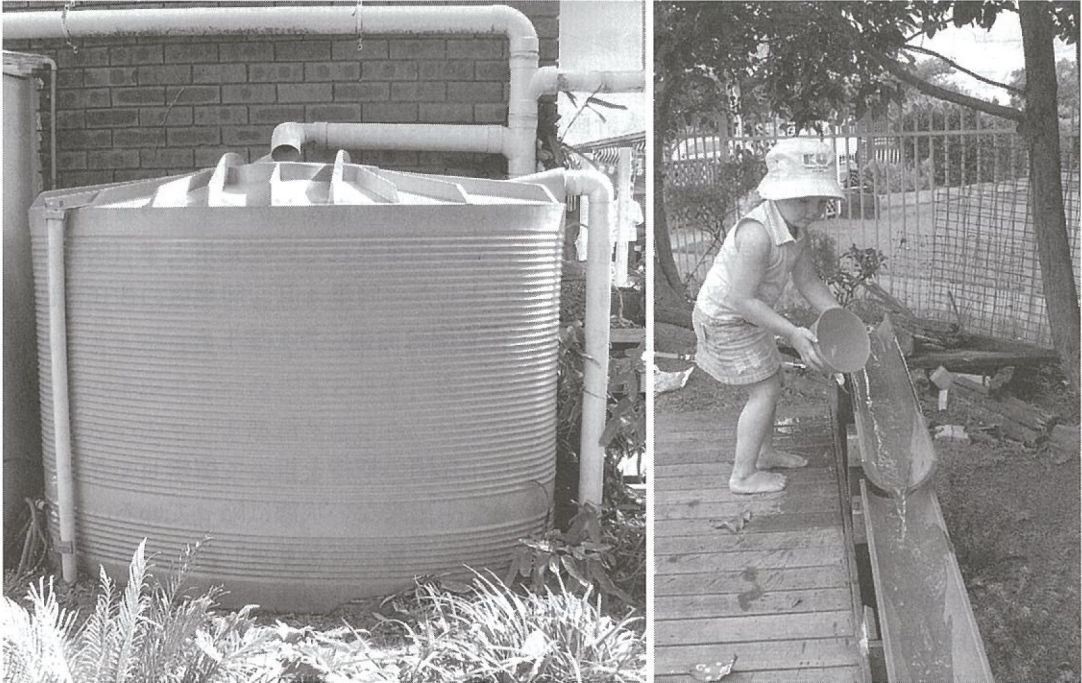
発行 日本保育協会

水の大切さを実感する環境づくり

— KUピーターパン・ラ・ペルーズ幼稚園ほか（オーストラリア）—

公益財団法人 日本生態系協会
教育研究センター長 田邊龍太

子どもの思いやる心、命やものを大切にする心を育むためには、自然の恵みを生かした保育環境づくりが重要です。ここでは、そうした環境づくりを積極的にすすめる海外の事例をご紹介します。



『雨が大切な自然の恵みであることに気付かせたい』
『水を大切に使う工夫を身に付けさせたい』

オーストラリア・ニューサウスウェールズ州の多くの園では、園児が普段の生活の中で、水の大切さに気付く環境づくりを積極的に行っています。

例えば、水遊びをするときに、園児は水道水ではなく、園舎の脇に取り付けられた大きな雨水タンクの水を使います。この雨水タンクが空になったら、次に雨が降るまで水遊びはお預けです。

水を大切に使う工夫は他にもあります。園庭の草や木に水をあげるときにも、園児はまず雨水タンクの水を使います。また、お昼に飲み残した水も無駄にしません。余った水を流しに捨てずにバケツに集めます。この水は、当番の子が菜園の作物にあげます。

園児は、このような生活を通じて、水を無駄にしない生活の仕方を身に付けています。

